

「徳成随風」(12)

2013.07.11

再び北勢線に乗って

桑高同窓会長 西羽 晃

今年1月の「徳成随風(6)」に北勢線のことを書いた。その文章が桑名高校同窓会のホームページに掲載された。その文章を読んだ朝日マリオン21の女性記者から取材の申し込みを受けた。朝日マリオン21とは朝日新聞の子会社で、いくつかの企画記事を担当しているようだ。私に対する取材は北勢線馬道駅を朝日新聞夕刊の「ひとえきがたり」に取り上げたいとのことである。これは毎週火曜日の夕刊に全国の朝日新聞に掲載されている。

1泊2日の予定で記者が桑名へ来たが、私は2時間余り取材に応じた。別の日に「北勢線の魅力を探る会」の下見のために、記者は東京発6時の新幹線に乗って参加し、「探る会」の世話役たちと共に1日阿下喜を歩き回った。その時にも色々と北勢線の魅力を話した。そして7月9日の全国の『朝日新聞』夕刊に馬道駅のことを掲載された。いずれWEBで掲載されると世界中に知られることになる。

日本の鉄道は大都市圏と新幹線以外は衰退の一方をたどっているが、北勢線もご他聞にもれない。馬道駅の乗車客の年間数字をあげると

1965(昭和40)年 718,371人(うち定期客210,021人 29.2%)

2002(平成14)年 55,723人(うち定期客15,223人 27.3%)

2011(平成23)年 82,341人(うち定期客22,757人 27.6%)

(いずれも『三重県統計書』より)

1965年以前の馬道駅の統計は不明だが、1965年ころが最高だと思う。この年から近鉄の経営になったのである。近鉄の最後の年である2002年には1965年に比

べて 92.3%の減で、実に 10分の 1 以下である。そして三岐鉄道に経営が移り、徐々に増えてきたが、まだまだ赤字路線には変わらない。

1965 年ころは東芝や日立への通勤者、近鉄益生経由で四日市や名古屋へのサラリーマンで賑わっていた。2012 年度の桑高生（全日制・衛生看護専攻科・定時制）は全部で 1210 人。そのうち北勢線通学生は 197 人である。馬道駅を利用している定期利用者の大半は桑高生で、明正中学、桑名工業高校（七和下車）、いなべ総合学園高校（楚原下車）、他に名古屋や四日市の高校への通学生で、会社勤めの定期利用者は非常に少ないと思われる。

三岐鉄道の経営になって、ほとんどの駅舎が建て替えられたが、西桑名駅と馬道駅の駅舎だけはリフォームされただけで本体は変わっていない。馬道駅は 1931（昭和 6）年の建設であり、昭和初期のレトロな面影を残している。

北勢線は存続が危ぶまれており、起死回生の策が望まれるが、その一つは近鉄・JR 桑名駅への乗り入れを実現することだと私は思っている。

なお、次回の「北勢線の魅力を探る会」ウォークは 10 月 14 日（祝）に阿下喜散策を予定している。お問い合わせは下記へ。

携帯電話 080-3073-3313（近藤）

Email [nishiha123@beige.plala.or.jp](mailto:nishiha123@beige.plala.or.jp)（西羽）